

M.M 地方公務員/市役所勤務

富山国際大学

現代社会学部現代社会学科卒

私は、大学生活 4 年間でほとんどボート競技中心で生活していました。

高校とは違い、朝 5 時半から集合し練習を行い、8 時頃急いで片づけて朝食を食べ、慌ただしく学校へ行き、9 時から 1 限目の授業を受ける。16 時頃授業が終わればまた練習場に行き、すぐ練習をし、家に着くのは 19 時頃、といった生活を行っていました。部活は 1 回の練習で考えさせられることも多く、毎日悩みながら行っていました。周りにいた先輩や同期は自分よりも優秀な選手ばかりで、思うように成績が伸びず焦りをずっと感じており苦しい時の方がはるかに多かったと思います。今振り返ると、コロナウイルスによる自主練習の時に自分と向き合うことが出来たと思います。感染拡大防止のため、全体練習がなくなり自主練習の期間が 2 か月ほどありました。大会も多くが中止となりました。この期間は他の部員と一緒に活動が出来ない状況となったため、周りを気にすることなく自分と向き合うことが出来ました。その結果、焦らず自分出来るベストを尽くして毎日練習する、自分の可能性を信じて大学生活をやりきる、と考えることが出来ました。全体練習が出来るようになってからは、当たり前練習が出来たありがたさ、大会が開催されるありがたさを改めて感じました。

2 年、3 年、4 年と学年が上がって伸び悩むことも多かったですが、自分の成長を感じ喜ぶ時も増え、成績も少しずつ上の順位になりました。最終的には、全日本選手権 4 位、インカレ 4 位とメダル獲得とはなりませんでした。全日本選手権、インカレなど出場した大会すべてで入賞出来たことは大きな自信になりました。また、大学最後の大会の鹿児島国体では長崎県選抜として出場し、6 位となりました。成年選手となって初めての国体で成績を残すことができ、またお世話になった長崎県に貢献することができて本当に嬉しかったです。4 年間通してメダル獲得や優勝には届きませんでした。後悔はありません。最後の 1 年間はキャプテンを任せていただいたこともあり、上に立つことの責任や大変さを学びました。また、他の人に適度に頼ること、物事の進め方など生きていく上で必要なことを何度も失敗をしながらではありますが、様々な方に助けていただきながら学ぶことが出来ました。

卒業後は生まれ育った諫早市で働きたいと思い、諫早市役所に就職しました。移住定住推進課という部署で毎日充実した日々を送っています。私は空き家バンクや移住相談を行っています。県外の方とお話することも多く、多くの方と関わりながら仕事をしています。様々な方とお話しているうちに、自分が思ってもいなかった視点から諫早市を見ていたり、魅力を感じていたりすることを知り、毎日新しい発見ばかりです。多くの方と関わる時に、部活動で身に付けたコミュニケーションの仕方や人との関わり方を生かすことが出来ていると感じます。大学在学中は思ってもいませんでしたが、様々なところで部活動によって身に付けたことが生かされているので、ボートを続けて良かったと思います。今はまだ多くの方に助けていただければいいので、早く仕事を覚えられるようにしたいです。

大学、就職を通して、私は人に恵まれていると思います。大学生活では、困ったときに相談に乗って問題解決に向けて一緒に考えてくれる同期や、なんでも助けてくれて時には厳しく優しく頼りになる先輩、意見を求めたときに新たな考え方をして発見させてもらい年下と感じさせないくらいしっかりした後輩、このような周りに尊敬できる人がたくさんいたからこそ、4年間人としても成長し、楽しく充実した生活を送ることが出来ました。また、見守って応援していただいた高校の先生方や県のボート協会の方々にも感謝しかありません。特に家族や両親は遠く離れた場所に快く送りだしてもらい、たくさんの応援や手助けをしてもらいました。これから少しずつこの恩をみなさんに返していきたいです。また、今の職場でも、仕事の取組み方・向き合い方や人として尊敬する方が多く、毎日学ぶことが多いです。このような職場で働かせていただけることが光栄です。

多くの方に助けられて大学4年間を過ごすことが出来ました。コロナによって思ってもいない方向になることもありましたが、そのおかげで学んだことも多かったです。これからは、両親などお世話になった方に恩返しをしていきたいです。まだボート競技は続けようと思っているので、仕事との両立をしながらこれから頑張っていこうと思います。